

第5回神戸市地域公共交通活性化協議会会議録

平成30年3月26日（月）

第5回 神戸市地域公共交通活性化協議会

1 日時 平成30年3月26日（月） 午前10時～12時

2 場所 三宮研修センター 5階505会議室

3 委員（出席者30人、欠席者7人）

（1）学識経験者

小谷通泰	井料隆雅（欠席）
正司健一	水野優子

（2）市民代表

岩佐光一朗（欠席）	玉田はる代（欠席）
-----------	-----------

（3）交通事業者

松本修治	渡邊圭史
早川泰正	奥野雅弘（代理：治部）
楠葉誠司（代理：増味）	辰馬秀彦
野々下恵介（代理：小西）	長井透
八畠敦	横井考修（代理：西澤）
前田啓介	野澤俊博
成川邦彦	松本恒平
平尾文一（代理：大谷）	

（4）各種団体

中澤秀明	奥篤
市邊裕喜（代理：安田）	前野博司

（5）関係行政機関

太田裕之（欠席）	安江亮（代理：野村）
林成好（欠席）	登日幸治（代理：正垣）
山内良太（欠席）	小出一真（代理：堀江）
永田章彦（欠席）	星島淳一（代理：岸田）
原正太郎（代理：岡田）	小嶋省一（代理：白波瀬）
丸岡稔和	若林宏幸

4 議事

(1) 神戸市地域公共交通網形成計画の進捗について

(2) その他報告事項

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○竹本公共交通課長

それでは、時間になりましたので、始めさせていただきたいと思います。

本日は大変お忙しい中ご参集いただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまより第5回神戸市地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。

私は、神戸市の住宅都市局の交通政策部公共交通課長の竹本と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、まず開会に当たりまして住宅都市局の交通政策部長の鈴木よりご挨拶を申し上げます。

○鈴木交通政策部長

改めまして、皆さん、おはようございます。神戸市住宅都市局の鈴木でございます。

本日は第5回の活性化協議会ということで、ちょうど1年前に神戸市地域公共交通網形成計画という計画を取りまとめ、最終取りまとめがちょうど1年前の3月でございました。それから1年が経過したということについて意見交換させていただきたいと。それから、並行して北神地域、神戸市の北区のほうで路線バス、コミュニティバスをあわせましたバス路線の再編計画というものを現在進めておりまして、その進捗についてご報告させていただく。それから、来年度、各交通事業者さんがどういう計画をお持ちなのか、また神戸市として交通施策としてどういうものを展開していこうかということについて情報交換、意見交換なりさせていただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○竹本公共交通課長

それでは、最初にお手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。次第に記載をしております、配付資料、資料1から資料9ということで、どの資料も右肩のところに振っておりますので、ご確認いただければと思います。それから、その後に参考資料ということで、座席表と参考資料2、バスマップを3部。それのほかに網形成計画の概要版を配布させていただいておりますので、ご確認いただきたいと思います。過不足等ございませんでしょうか。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

資料1をごらんいただきたいんですけども、本日もご出席いただいております委員について委員名簿のほうで出席あるいは代理という形で書かせていただいております。

学識経験者の委員は3名、交通事業者の委員が15名、各種団体の委員4名、関係行政機関の委員9名の出席をいただいております。ありがとうございます。

時間の関係もございますので、この名簿をもって出席者のご紹介とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからは小谷会長のほうに進行をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議事

(1) 神戸市地域公共交通網形成計画の進捗について

○小谷会長

皆さん、おはようございます。

本日、第5回目の協議会ということで、お忙しいところお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

委員の皆様方からは、限られた時間でございますが、忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の議事次第に従いまして議事を進行させていただきます。

まず、1番目の議事、神戸市地域公共交通網形成計画の進捗につきまして事務局からご説明をお願いいたします。

○竹本公共交通課長

それでは、網形成計画の進捗につきまして資料2と資料3でご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、資料2をごらんください。

これは神戸市地域公共交通網形成計画の考え方というのをまとめたものでございます。左から現状・課題、基本方針・目標、公共交通施策の取り組み方針との関係ということであらわしております。

人口減少や高齢化の進行ということで左に掲げますような現状・課題ということがありまして、公共交通に対する社会的要請というのが増しているということで、基本方針

は、真ん中の上の段ですけれども、「都市の魅力・活力の向上に資する利便性の高い公共交通の実現」ということで、4つの目標をその下に掲げております。

まず、目標ごとに代表的な数値目標というのを設定しておりまして、さらに右側、緑のところですが、これらの目標を実現するための具体的な取り組みということで6つの施策、各地域ごとに上から順番に、都心、西北神地域、各地域コミュニティ、北神地域、観光地という5つの地域ごとの施策と、これら全てに係る施策ということで施策の6番、「公共交通の利便性向上および利用促進」、そういった形で設定をしております。

続きまして、資料3のほうにいきたいと思います。

資料3ですけれども、こちらは網形成計画におけます6つの各施策につきまして各施策の取り組み内容ごとに29年度の進捗状況と30年度の予定を示しております。

施策1から順番に説明させていただきます。ちょっと字が小さいんですけど、よろしく願いいたします。

施策1は都心での取り組みとなっております。

まず、交通環境の整備では、29年度は新たな中長距離バスターミナルの整備に向けた基本計画の案を公表して意見募集を行っております。前面スクリーンのほうに計画案を出しておりますが、計画案では、分散したバス停を集約しまして新たなバスターミナルを再開発ビルとあわせて整備するというにしております。また、次のスライドにってもらいますと、段階的にⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期という形で整備するといったこととしております。年度内に計画を策定しまして、来年度は事業協力者の選定、事業計画の作成といったことを予定しております。

その下の欄ですね。わかりやすく使いやすい料金体系とございますが、29年度はゾーン内均一料金制度の検討の一環ということで企画乗車券を活用した社会実験を行っております。

それから、公共交通に関連する情報案内の充実ですが、神戸市総合インフォメーションセンター内に三宮駅周辺のバス乗り場を案内するデジタルサイネージを設置しております。4月から運用を開始する予定となっております。

それから、交通手段の充実ですが、新たな公共交通システムの導入可能性検討の一環ということで、29年7月に神戸港開港150周年イベントにあわせまして三宮からウォーターフロント間で連節バス運行の社会実験を実施しました。前面スクリーン、一番上の

ほう、赤色のルートがそのルートになっております。土日・祝日の5日間、1日5往復のダイヤで、約2,500人の方にご利用いただいております。30年度につきましては、もう少し長い期間ということで、2カ月程度を考えておりますが、社会実験を実施しまして、利用者の動向を確認したいと考えております。

それから、基幹公共交通であるポートライナーの混雑緩和・輸送力増強策ですが、29年度はポートライナーの混雑緩和策としまして社会実験バスを引き続き運行しております。それと、新たに、中学・高校生を対象としましてポートライナーからバスへの転換を図るために、共通乗車証による混雑時のバス通学の社会実験を実施しております。30年度につきましては、これらの社会実験を継続していくということとポートライナーの8両化、混雑する三宮駅ホーム拡張の検討といったことを行っていきます。また、既存のポートライナーの車両の改造といったことで輸送力を高めてまいります。

続きまして、広域交通拠点間の公共交通ネットワークの強化でございます。こちらにつきましては、29年度は連節バス運行の社会実験ということで、また前のスクリーンのほうの青ルートになります。三宮から空港間を走らせております。こちらも5日間走らせてまして、1日2便の運行をしております。30年度につきましては、新神戸から神戸空港間で連節バスの試走を予定しております。それから、4月1日からですけれども、新神戸・三宮と神戸空港を結ぶシャトルバスが新たに神姫バスさんによって本格運行されるということになっております。

続きまして、施策2、西北神地域での取り組みでございます。

鉄道とバスの効果的な役割分担ですけれども、29年度は、神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画を沿線市と県、交通事業者で策定しまして、神戸電鉄粟生線活性化協議会におきまして粟生線と粟生線各駅のバスの時刻表が一体となりました乗り継ぎガイドというものを作成しております。

それから、駅へのアクセス改善ですが、粟生線沿線の駅前用地をパーク&ライド駐車場として活用しております。30年度は、社会実験としまして数カ所のパーク&ライド駐車場で公共交通利用者に対しまして駐車料金割引といった実験を予定しております。

それから、まちづくりとの連携ですが、29年度は、神戸複合産業団地の企業誘致や鈴蘭台での再開発や駅の橋上化、桜の宮住宅の建て替え事業といったものが主に進捗しております。駅を中心としたまちづくりを進めております。神戸複合産業団地におきましては10月に新たにバス路線が新設をされております。30年度につきましては、鈴蘭台

におきまして駅再開発ビルが秋ごろ開業する予定ということになっております。

それから、利便性向上・利用促進の実施になりますが、こちらでは29年度につきましては、70歳以上のシニア層を対象としました企画乗車券ということで、神鉄シーパswン、神鉄シーパswンplusの継続販売をしております。年間の販売枚数につきましては3万枚を超えるといった状況でございます。前面スクリーンに概要を表示しております。左がシーパswンで右がシーパswンplusでございます。30年度につきましては、今まで年間購入枚数は4枚ということでしたが、1枚増やしまして5枚、50日分ということで拡大していく予定でございます。また、粟生線沿線住民などを対象としましたモビリティ・マネジメントも実施をしております。

基幹公共交通の維持・充実等の検討でございます。粟生線の交通網形成計画を推進するとともに、学識経験者や国・県・市、交通事業者によって構成されます北神地域交通問題検討会におきまして、北神急行への支援、その効果等について検討を行っております。

それから、施設の更新・改良による安全性の向上・耐震化の推進におきましては、国の補助制度を活用しまして老朽化した鉄道施設の改良、設備整備に対しまして支援を行っております。

それから、輸送サービスの改善ですが、神戸電鉄押部谷駅の美装化を実施しております。これは神戸電鉄粟生線の公共交通網形成計画に基づくということで、30年度も引き続き実施していく予定でございます。

それから、効率的な運行につきましては、需要に合わせて神戸電鉄のダイヤ改正が実施されております。

続きまして、裏面にまいります。

施策の3番ですが、地域コミュニティ交通の維持・充実の取り組みでございます。

2段目の新たな地域コミュニティ交通の導入ですが、29年度に垂水区の塩屋地区、北区八多町でコミュニティバスが本格運行を開始しております。また、北区の淡河町におきましては、淡河町ゾーンバスが公共交通空白地有償運送としまして関係者との協議を終えて、30年春から運行する予定でございます。前面スクリーンですけれども、本格運行開始した2地域の概要を示しております。垂水区塩屋地域、右側ですけれども、こちらにつきましては27年2月に塩屋コミュニティバスを走らせる会というのが地域団体によってつくられました。その後、住民アンケートや試験運行を経まして、29年4月より

ミニバン車両を使った「しおかぜ」が地域内を巡回するというので本格運行を始めております。本格運行から約1年になりますけれども、延べで約3万人の利用がございました。それから、左側ですけれども、こちらは、北区八多町でございます。こちらも平成24年度から検討開始し、試験運行等を経まして、29年10月より小型バスを用いた「はたっこバス」が八多町と岡場駅、同じく道場南口を結ぶ2つのルートで運行を始めております。そのほか、幾つかの地域で地域コミュニティ交通の導入について検討が進められております。29年度につきましては新たに3地区に支援を開始しております。

表に戻りまして、地域コミュニティ交通の利用促進、それから利活用がありますが、こちらにつきましては地域での利用促進イベントあるいは企業といったことが行われております。また、須磨区の潮見台におきましては「あいのりタクシー」の取り組みが地域住民によって実施されております。

続きまして、施策4でございます。北神地域のバス路線再編の取り組みでございます。

今年度、再編実施計画の作成に向けて検討部会を別途立ち上げて検討を進めております。こちらにつきましては後ほど進捗状況の報告をさせていただきたいと思っております。

施策5でございますが、六甲、摩耶及び有馬の観光地での取り組みについてでございます。

28年度に、まやビューライン、それから六甲有馬ロープウェイの無料運行の実験、これに引き続きまして29年度は同様にワンコイン、500円での運行とあわせまして、三宮からの無料バスの社会実験ということで実施をいたしました。実施に当たりましては地元団体の開催するイベントとも連携したということでございます。前方スクリーンは実験の概要でございます。8月の平日5日間に実施しまして、表の右側になりますが、29年度につきましては、まやビューラインで通常の約3倍、六甲有馬ロープウェイで通常の2倍の利用となりました。30年度につきましては、経済観光局を中心としまして六甲山の活性化施策とあわせまして、都心と摩耶ケーブル、六甲ケーブルを結ぶ直行バスの運行を予定しておりまして、引続きアクセスの改善や回遊性の向上に取り組んでいく予定としております。

最後、施策6でございます。

「公共交通の利便性向上および利用促進」としまして、まず待ち合い環境の整備ですけれども、29年度につきましては、合計43基のバス停のベンチが新たに設置されております。市としまして民間バスのベンチの設置に支援を行っております。

ユニバーサルデザインの推進につきましては、29年度は北神急行で2編成が車内外の表示のユニバーサルデザイン化をされております。30年度も引き続き推進してまいります。

公共交通マップ等の作成につきましては、29年度は市内12社局のバス路線を1つにまとめました、今お配りしておりますKOBEバスマップを発行しております。引き続き使いやすいマップとなりますように工夫をしていきたいと考えております。

わかりやすく使いやすい料金体系におきましては、29年度は新たにシティー・ループでICカードのシステムが導入をされております。

鉄道と連動したバス運行ダイヤの設定ですが、粟生線沿線のバス事業者に対しまして鉄道とのダイヤ調整の依頼ということを行っております。

公共交通への利用転換の意識啓発ですけれども、29年度につきましては出前トークも引き続きやっております。30年度につきましては小学校を対象にした出前授業等も実施していきたいなというふうに考えております。

以上、資料3の説明を終わります。

引き続き、部会を設置して検討しております北神地域のバス路線再編について説明をさせていただきます。

○久保交通支援担当課長

失礼します。担当課長の久保です。よろしくお願いたします。

資料4に従いましてご説明いたします。

北神地域のバス路線再編に関しましては、別途、検討部会を設けております。29年3月に準備会を開催しまして、これまで3回、検討部会を行いまして、先週の金曜日に第3回の検討部会で北神地域公共交通再編実施計画（素案）を取りまとめている状況でございます。

ページの下に、北神地域の交通の概要に関して簡単にまとめております。

三木市、神戸市、三田市をまたがる長大バス路線が運行していますが、人口減少、高齢化の進行などにより、住宅が散在している状況、バス停までのアクセスが不便である、バスの利用者が減少して、それに伴いまして運行本数も減少するという負のスパイラルにあるという課題を抱えております。一方、国・県・市と協調した運行の補助を実施しておりますけれども、年々補助額が増加しています。こういう状況を踏まえまして地域の皆さんも主体的な取り組みを行っております、地域コミュニティ交通の導入に向け

ていろいろな活動を行っている状況です。

再編実施計画の策定の方針ですけれども、これらの長大バス路線を利用実態に応じて見直し、また地域のまちづくりと地域コミュニティ交通の導入に向けた取り組みを神戸市としても連携して支援していく、こういうような交通ネットワークを形成していきます。さらに、バスの乗り継ぎ機能を有する拠点整備や乗り継ぎ利便性の向上施策についても検討を進めるといふふうに考えてございます。

対象地域としましては、前面スクリーンにもお示ししておりますけれども、神戸市北区の北神地域のうち田園地域を中心とした地域となっております、主に淡河町、大沢町、長尾町、八多町と、この4町を対象に計画を策定してございます。

計画の実施予定期間に関しましては、31年4月から36年3月の5カ年というふうにしてございます。

裏面をごらんいただけますでしょうか。

こちらのほうは網形成計画に書いてある路線再編のイメージをお示ししております、青のラインで基幹交通である神戸電鉄、緑色で幹線公共交通ネットワークという神戸市内の拠点と隣接市を結ぶようなバス路線、赤色で隣接市間同士を結ぶようなバス路線や地域に密着したバス路線ということで地域コミュニティ交通ネットワークというものをお示ししております。

こういった現況を右側の再編後で、バスの需要に応じたバス路線の短絡化であるとか乗り継ぎ改善またはバスの増便・減便等を行うというふうにしてございます。前面のスクリーンが部会の中で検討している内容をお示ししております。

まず、2つのバスの乗り継ぎ拠点を設けておりまして、こちらの淡河町の道の駅がこちらにございます。もう一つがイオンモール神戸北がこちらにございまして、この2つの乗り継ぎ拠点を中心にバスのネットワークを再編していくというような考え方で進めてございます。

淡河町のほうには、東西方向の三木市、三田市を結ぶような長大路線と、三木市と岡場を結ぶようなバス路線、それと岡場駅と八多町を結ぶようなコミュニティバスがございまして、これらのバスを利用状況に応じて短絡化もしくは延伸を行う、あるいは南北方向の吉川と三宮を結ぶような長大バス路線との連絡性を高めて、乗り継ぎ利便性、利用の増加を見込むというような取り組みを考えてございます。さらに、先ほども紹介にございました淡河町のゾーンバスを赤い丸印で示してはございますけれども、これは一昨年の

12月に一旦、後継者がいなくなったということで、運行廃止してございましたけれども、この4月からまた運行開始できるというような状況です。このバスも淡河町の道の駅を中心に乗り継ぎ利便性を高めることによって利用促進してまいりたいと考えております。

もう一つのネットワークがイオンモール神戸北を中心とするバス路線なんですけれども、長大バス路線として三田市と社町を結ぶような長大路線がございます。この路線に関しましてはほとんど神戸市内を通過するような利用状況になっているということで、休日の一部便をイオンモール神戸北に乗り入れるというようなことを図りまして利用者の底上げを行います。

また、黄色の線で書いているバスは三田と岡場駅を結ぶような1日3往復のバスですけれども、利用が減少している状況もございましたが、大沢小学校、大沢中学校が沿線にございまして、そちらの学校に長尾町の小・中学生が遠距離通学できるようになった背景を踏まえて、バスのダイヤ改正を行います。それに伴いまして、長尾町の小・中学生がこのバスを利用して大沢町の小・中学校に通えるようになります。こういった取り組みによって利用の底上げを図っていきたいと考えております。

赤い丸で囲んでおりますのが大沢町のコミュニティバスで、今現在、地域の皆さんで大沢の集落とイオンモールを結ぶようなコミュニティ交通の導入について進めてございますので、進捗が図られ次第、改めてこの再編実施計画の中に入れていくというように考えてございます。

今検討している内容については以上のようになっておりまして、お手元の資料に戻ります。今後の予定のところに記載しております。先週、第3回の検討部会がございまして、今後、来年度5月ごろを予定しておりますけれども、地元説明会を4町の集落を対象に行いまして、その後、6月末ごろに第4回の検討部会で計画（案）をまとめていきたいと思っております。さらに、特定旅客運送事業者様の同意を得まして、9月末ごろに再編実施計画（案）を国土交通省のほうに申請します。年末年始にかけて再編実施計画の認定をいただけますと、第5回の検討部会でその報告等を行いまして、翌年31年4月からは今説明した内容の再編実施計画による運行を開始したいと考えております。

こちらの網形成計画の活性化協議会に対しましては、必要に応じて開催をお願いするところですが、少なくとも31年1月から3月の間ぐらいに第6回の開催を行いまして、再編実施計画についてご報告差し上げたいと思っております。

説明については以上です。

○小谷会長

どうもありがとうございました。

前半は、地域公共交通網形成計画におけます、6つの施策に分けて、これまでの進捗状況、また今後の予定、それから後半は、現在精力的に検討を進めていただいております北神地域の公共交通改編実施計画の内容につきまして現在の状況をご説明いただきました。

ただいまのご説明に対しまして委員の皆様方からご質問、ご意見等ございましたら、よろしく願いいたします。いかがでしょう、何かございますでしょうか。

特にございませんようでしたら、後でまとめて議論する時間をとりたいと思いますので、よろしゅうございますか。先生方、何かございますか。もしよかったですら。

○正司委員

後の時のほうがいいのかもかもしれませんが。いろいろ取り組まれているのがわかって、よかったんですが、公共交通の分担率を上げることに関連して、神戸市ないしは神戸市関連のところ取り組んでおられるもの、例えば駅の改良とか駅周辺地区の改善とか、レンタサイクルとかもこれに絡んでくるので、そういったこともご紹介いただくなりした方がよいのではないのでしょうか。本会議の前の議論では直接は入っていなかったかもしれませんが、この目的に関連する、連携する計画だと思えるので。こういったことも、今後この協議会でも気を配っていかないと分担率の向上につながらないのかと思いますので。もう一点は、企画乗車券、今検討を進められているというお話で、社会実験をどこかでされるんだと思います。ぜひそのときにはモビリティ・マネジメントと絡めながらの施策も導入していただきたいと思いました。

以上2点、ちょっと感想めいたコメントでございます。

○小谷会長

いかがですか。事務局のほうから何か回答いただけますか。

○竹本公共交通課長

そうですね。施策の1から6につきましては、主だったものをまとめさせていただいたということになっておりまして、先ほどご指摘ありました自転車の関係とか、そういうところが入っておりませんでしたので、来年度以降、こういった報告の場では意識してつくっていきたいと思います。公共交通課がやっていることを中心にまとめているところもありますので、全市的なところを見ながら、もう少し作り方を考えていきたい

と思います。ありがとうございます。

○小谷会長

特にMMに関して何か取り組みはございますか。部分的に地域で取り組んでおられますが、市域全体としてはどのような状況でしょうか。

○竹本公共交通課長

そうですね。MMに関しましては、ちょっと弱いところもあるといいますか、どのように進めていったらいいのかなというのも今も思っているところもありますので、今後、またやり方等を考えていきたいと思っております。企画乗車券とあわせてというようなこともありますので、またご相談させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○小谷会長

そうですね。確かにいろんなことをやっておられる、ある程度地域ごとにも整理していただいておりますが、各施策間の関連ですね。パッケージといいますか、ご説明を聞くと、ばらばらに聞こえるのですが、同時進行で組み合わせてやることによって、うまく相乗効果を生み出しながら推進されているという、その辺のイメージがちょっと伝わりにくいと思います。正司先生がおっしゃることも含めて。その辺をまたうまく工夫して、この施策とこの施策と一緒に組み合わせたから、こういうふうによく進んでいったんだというふうにご報告いただけると、非常に興味深いかなと、私もそういう感想を持ちました。この協議会の一番大事なところで、全ての事業者の皆さんが参加していただいて共同でやっていくということなので、また後ほどご説明いただければと思いますが、そういう視点でまとめていただければと思います。

いかがでしょうか。ほかに何かございますでしょうか。

特にございませんようですので、引き続きまして、各委員の皆様方からご発言をいただきたいと思っております。

交通事業者、各種団体の委員の皆様方から、お手元の資料5、6、平成29年度に実施されました事業並びに30年度の実施予定事業につきまして簡単にご紹介をいただきたいと思っております。

まことに恐縮でございますが、お一方、二、三分程度でご説明いただければありがたいと思っております。

お手元の委員名簿の順番にご発言をいただきたいと思っております。

まず、神戸電鉄さんからよろしく願いいたします。

○松本（修）委員

神戸電鉄の松本でございます。

資料の説明に入ります前に、去る3月4日に三木駅のそばで火災がありまして、それが三木駅に飛び火し、駅舎が焼失いたしました。この件につきましては皆様に多大なご心配とご不便をおかけいたしました。改めておわび申し上げます。

なお、三木駅については、運転保安上の重要な装置が焼失しなかったということで、何とか早期に復旧することができまして、現状では、もとのダイヤに戻ってございます。築80年という立派な駅舎が立っておりましたが、こちらにつきましては、当社の状況からしますと、もとの立派な駅舎を再建するというふうにはいきませんが、三木駅の周辺は交通環境がよくない、具体的には駅前広場が整備されていない、あるいは歩道が整備されていないということもございますので、跡地をそういった交通環境の改善や賑わいづくりといったことで活用を図っていきたく思いますので、これにつきましては、接道するところが県道ですので、兵庫県さん、それと地元の三木市さんと協議してまいりたいと思いますので、またご支援いただければと思います。

資料のほうのご説明をさせていただきます。

まず資料5の昨年度の取組みを説明しますと、ダイヤ改正とか、あるいは適正な運行形態の検討ということで、粟生線に関しては運行形態の見直しなども沿線の自治体様とご協議させていただいているところですが、29年度は進展がないという状況でございます。

次の交通環境の整備等につきましては、現在、車両が老朽化してきておりますので、国の補助制度を活用しながら新型車両の導入を図っているところでございます。新型6500系車両は従来の車両と比べると電気代が60%ほど節減できるということと、インバウンドにも対応し4カ国語の案内が車中で表示されること等が特徴であり、新たに2編成を導入しました。さらに、鈴蘭台に関しましては、北区役所が駅前に移転してくるといった再開発とあわせて、駅舎の橋上駅舎化を進めております。これにつきましては順調に進捗しておりまして、本年の9月には区役所とともに新しい駅舎へ移るということで進めているところでございます。あと、有馬温泉はインバウンドが非常に増えているわけですが、こちらについてはバリアフリーが十分行き届いていないということで、スロープや多機能トイレを整備しました。

情報案内の充実等のところでございますけれども、インバウンド対策がおくれているところでございますが、ようやくこの3月からすべての車両で日本語だけでなく、英語による車内案内放送も開始いたします。あと、神戸電鉄も地方鉄道としていろんな取り組みをやっているんですけれども、なかなか広報が行き届かないというところがございます。まして、今年度、フェイスブックを活用し、情報をタイムリーにお届けするというような取り組みを開始いたしました。

料金体系等のところに関して言いますと、ほかの事業者さんと共通なんですけれども、ICカードサービスの充実ということで、4月15日に当社線でもICOCAの発売を開始させていただきました。これによりまして、ICOCA定期券並びにPiTaPa、その両方で通勤定期券が買えるということになっております。また、企画乗車券をたくさん出しておりますが、記載のとおりでございます。

あと、イベント関係は、特に地域と一緒にコラボしてやるということに力を入れておりまして、そうしたイベントをたくさんやっております。その中でも特色のあるのは沿線ハイキングでございます。当社単独でも62回と、結構やっているんですけれども、ほかの鉄道会社さんとの共催が30回、行政等との共催が31回ということで、年間123回ということで、3日に一回はハイキングをやっているということで取り組んでおります。

資料6のほう、来年度ということでございますけれども、運行計画については、引き続き検討していくというところで、現時点で決まっているものはございません。

車両につきましては、来年度も一応2編成の国の補助がつく見通しが立っておりますので、2編成を入れさせていただくということで進めてまいります。鈴蘭台の駅舎につきましては先ほどご報告させていただいたとおりです。

安全対策については、来年度は内方線付きの点状ブロックの整備を有馬温泉駅で、スロープの整備を唐櫃台駅で、転落防止用の頭端柵の設置を新開地駅と有馬温泉駅等で実施してまいります。

情報案内の充実のところ、フェイスブック、企画乗車券の取り組みは継続となっております。

イベント等のところですが、当社線は1928年11月28日に有馬温泉駅と湊川駅間が開通して始まりました。それから90周年ということで、4月1日からいろんな事業に取り組んでまいります。これらも、できるだけいろんなところとコラボしてやっていこう。とりわけ、県政150周年、三田市制60周年、あるいは神戸高速鉄道開通50周年、北神急行

30周年というような、周年イベントがメジロ押しですから、そういったところとコラボしてやっていくということで進めてまいりたいと思っています。ほかは大体例年どおりということで取り組んでまいります。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

引き続きまして、山陽電鉄さん、よろしく願いいたします。

○渡邊委員

山陽電気鉄道の渡邊でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料5からご説明いたします。

まず、運行計画の変更ということで、平成29年度はダイヤ変更ございませんでした。

昨年度もご紹介いたしました、新型車両6000系の導入ということで、平成28年度から順次導入しております。平成29年12月に3編成を追加導入しまして、現在、8編成が運行いたしております。今後も追加導入予定でございます。それから、内方線付き点状ブロックの整備について、神戸市内は昨年度中に完成していましたが、今年度、明石市内で最後の1駅が完成することで、弊社の全駅のプラットホームに内方線付き点状ブロックが設置されたこととなります。

続きまして、情報案内の充実等ということで、まず全駅で情報ディスプレイによる情報発信を行っております。イベントあるいは企画乗車券ですとか、列車運行情報などを発信しております。平成29年度の取り組みといたしましては、プラットホーム上、列車が接近したときに音と文字で警告を出す列車接近警告装置について、塩屋駅と西舞子駅には旧型のものが設置されておりましたが、そちらを新型に更新いたしました。

それから、企画乗車券関係についていろいろございますが、弊社で取り組んでいるところでは、70歳以上限定のシニアパスを発売しております。これはご利用者本人の写真を入れてもらう必要があり、ちょっとお手間をかけるんですけども、非常にお得な価格設定にしております、高齢者の方の外出機会創出ということに寄与できているのかなと考えております。

イベント・その他公共交通の利用促進、取り組み方針4のところの欄に移りますが、平成29年度は神戸開港150年記念事業協賛ということでポスターの掲出等をご協力させていただきました。また、弊社独自の取り組みとしましては、110周年記念事業という

ことで、いろいろ記念イベントを開催いたしておりました。これは会社創立110周年、それから、須磨区にございます須磨浦ロープウェイが運行60周年となっておりますので、これらをあわせて1年間取り組んでまいりました。あと、第7回神戸マラソンへの協賛ということで、情報提供等、神戸市さんとタイアップしてやらせていただいたのが平成29年度でございます。

資料6のほうにまいりまして、来年度の取り組みということでございますが、まず運行計画、ダイヤの変更予定はなしと担当から聞いておりますが、これは、阪急さん、阪神さんと直通運転しておりますので、ダイヤが密接に関係しており、各社のダイヤ改正があった場合にはそれにあわせての変更があるかもしれません。

それから、交通環境の整備、取り組み方針1のところですが、待合室の整備ということで、弊社、垂水駅のプラットホーム上に待合室を整備する予定にしております。

そのほかは特に、これまでの企画等の継続でございます。

先ほど神戸電鉄さんからもご紹介がございましたが、神戸高速鉄道線が昭和43年に開通いたしました。阪急さん、阪神さん、神鉄さん、弊社がそれぞれ改札ラッチフリーでつながったということでございますが、その記念50周年事業ということで、神戸高速さんと当時の乗り入れ4事業者が共同で各種記念イベントを予定しております。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、西日本旅客鉄道さん、お願いいたします。

○早川委員

JR西日本の早川と申します。平素はいろいろとお世話になりまして、ありがとうございます。

29年度の事業、30年度の事業につきましては、記載のとおりでございまして、逐一報告いたしません、ごらんくださいませ。

2点だけ、1点、29年度につきましては、今年度末をもちまして三宮ターミナルビルが一旦閉館することになりました。長年のご愛顧ありがとうございました。新ビルの計画はまだ立っておりませんが、神戸市さんと一緒に、いい神戸のシンボルになるようなビルの計画を進めてまいりたいと思っております。

もう一点、30年度の取り組みでございますけれども、I C O C Aにつきまして利便性

向上のためにポイントサービスというのを導入しようというふうな計画になってございます。中身につきましては、今、検討の真っ最中でございまして、詳細はまだ申し述べられませんけれども、よりご利用を促進するようなサービス、もしくは買い物等とあわせ持ったサービスみたいなところも計画してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

何点かだけ補足いたします。

当社の施策の方向性でございますけれども、1つ目、安全性の向上をまずもって優先して取り組みを進めたいと思っております。ホーム柵の検討、内方線付き点状ブロックにつきましては、神戸市内、今年度で全て終わる予定でございますが、安全性の向上にまずもって取り組むということ。

2つ目、JR西日本、よく遅れるというお声をよく聞きます。まだまだだと思っております。安定性、安定輸送の取り組みというのにも取り組んでまいりたいと思っておりますが、なかなか一朝一夕で安定性が上がるというものでもございませぬので、あわせ持って情報提供の充実に努めてまいりたいと思っております。例えば駅の運行の列車位置情報案内ということで、どの列車がどこに居るのかということをお客様に直接提供するみたいな取り組みもしてまいりたいと考えてございます。

安全性の向上、安定輸送の取り組みということで、お客様に安心してご利用いただける鉄道を築き上げるべく地道に取り組んでまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

以上です。

○小谷会長

ありがとうございました。

引き続きまして、阪急さん、お願いします。

○奥野委員（代理：治部）

阪急電鉄の治部と申します。委員の奥野が本日欠席ですので、代理で私のほうからご説明させていただきます。

まず、資料5のほうですけれども、今年度の取り組みといたしまして、交通環境の整備等というところで、これは平成28年度からということなんですけれども、神戸阪急ビル、神戸三宮駅と一体的にありましたビルを、一度、東館を撤去いたしまして、建てかえを実施しているというところでございます。おおむね撤去が完了してきてまして、計画

に基づいてビルの構築を進めているというところがございます。引き続き平成33年度までということですので、一部乗りかえ動線等に不便が生じておりますが、工事をそのまま進めさせていただいております。

続きまして、花隈駅のバリアフリー化工事ということで、こちらも平成28年度からですが、今年度、本格的に工事を進めておまして、平成31年度完成を予定して進めております。最終の完成が平成31年度ですけれども、エレベーターを順次つけていった段階で、今協議中ですが、もしかしたら部分的に供用開始をしていく可能性がございます。ここに関しては、どの年度でどのエレベーターをといるところがまだ決まっておられないので、割愛をさせていただきたいと思っております。

続きまして、料金体系・企画乗車券等のところがございます。これは記載のとおり継続で、各乗車券を進めております。

イベント等その他に関しましても、ハイキング、観光あるき等、記載のとおりで進めさせていただいております。

また、資料6の部分ですけれども、新規で書かせていただいているところがイベント等のところがございます。先ほどちょっとご紹介も幾つかありましたけれども、神鉄さんの90周年の記念ウオーク、また神戸高速50周年の記念ウオークというところで共催でさせていただく予定で考えております。

弊社のほうから以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

引き続きまして、阪神さん、お願いします。

○楠葉委員（代理：増味）

いつもお世話になります。阪神電鉄でございます。代理出席で本日出席しております増味でございます。よろしく申し上げます。

阪神のほうでございます。交通環境の整備等ということで、こちら、引き続きの事業でございますが、神戸市内での連続立体交差ということで、魚崎から芦屋の間でございます。連続立体交差化工事を今年度引き続き実施してまいりました。こちらにつきましては、来年度も引き続きということで、現在、再来年、31年度の切りかえに向けて進めてまいります。

それから、情報案内の充実等ということで、空欄であったんですが、ちょっと補足と

いますか、追加させてください。3月17日に阪神アプリという情報案内のツールをAndroidあるいはiOS、両方で配信をさせていただくことになりました。これにつきましては、駅の時刻表もそうですし、今、電車がどういった状況で運行されているのか、あるいは遅延情報、どうなっているのかといったメニューを取りそろえて発信してございます。またいろいろご利用いただき、皆様方のご意見をいただきまして、改良・改善していきたいと思っております。

それから、料金体系・企画乗車券等でございます。こちらも今年度あるいは来年度とほぼ変わらず、もろもろの企画乗車券を販売、ご利用いただきたいと思っておりますが、1点、今年度までやってございました有馬温泉の太閤の湯クーポン、こちらにつきましては当該施設がリニューアル工事に入られるということがございますので、30年度はこちらについてはなしということで進めてまいりたいと思っております。

最後、イベントその他のところでございます。こちらも例年どおり平日ウォークですとか「そぞろあるき」あるいはスタンプラリーといった各種イベントを開催していきたいなと思っております、先ほどからお話ございましたように、弊社におきましても、30年度、神戸高速線開業50周年の記念イベントというところに参加させていただきまして、スタンプラリー、あるいは、こちら記載のK O B E 8 マスターズウォークといったところを部分的にこの開業50周年記念イベントにあわせて参加させていただくという予定で進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

北神急行さん、お願いします。

○辰馬委員

北神急行でございます。

29年度と30年度の取り組みということで、資料は両方を見比べながらごらんいただければと思います。

当社、北神急行につきましては、神戸市北区から三宮・都心、神戸電鉄様と神戸市交様と連絡をしてということになりますが、主に通勤通学の公共交通路線でございます。そういったこともありまして、まず第一には安全ということで、安全の確保についての取り組みが今一番の課題になっております。と申しますのは、当社も、先ほどから周年

のお話ありましたが、当社は昭和63年の開業でございまして、本年で30年を迎えるということで、もろもろの大型の車両機器が更新の時期に来ております。最低限の安全を確保するということが鉄道事業者の一番の使命でございまして、ただいまその大規模な更新工事を、国・兵庫県様、神戸市様からもご支援をいただきながら、その取り組みを続けております。まず第一にその取り組みということで、交通環境の整備等のところの施設の整備・改良につままして取り組みを続けておるところでございまして。こちらにつきましては、あと3年、4年ほどは続きますので、これを引き続き続けておるということで、その取り組みが進捗しておるところでございまして。

もう一つ、安全の確保に加えまして、やはり鉄道事業者として取り組むということは利便性の向上と、当社は通勤通勤に加えまして有馬温泉への観光旅客輸送というところで役割を担っておりますので、特に最近の成長戦略ということもございまして、インバウンド対応ということで多言語表示についてもハード・ソフトの面で取り組んでおります。1つは、駅にLCDでの多言語表示、案内表示を設けますとともに、車両につきましても多言語の表示ということで引き続き取り組んでおります。また、ソフト面でも、アクセス案内ということで、多言語対応の案内チラシ等の配布等でそちらの案内の強化をしております。

サービス改善という意味ではユニバーサルデザインということで、特に平成30年度につきましては、こちら神戸市様からもご支援をいただきながら、駅のトイレの多機能化について実施をする予定でございまして。

さらに、人口減少の中で、やはり我々、今後の公共交通の維持ということが大きい課題になっておりますが、そのためには地域の皆様のご理解が不可欠であるということで、地域連携のさまざまなイベント、催し等を実施しております。それらにつきましては、記載のとおりでございまして、引き続きそういった取り組みについても進捗をさせていきたいと考えてございまして。

今後も人口減少の中で、特に鉄道につきましては多大な資本コストがかかるということもございまして、その中でどう路線を維持していくかということにつきましては、こちらに記載のとおり、北神地域交通問題検討会ということで、個別に当社路線の維持についてどうしていくかということにつきましては、国・県・市様、あるいは関連する阪急電鉄、神戸電鉄、神戸市交様とも連携をしながら議論を進めておるところでございまして。引き続き、そういった議論について深めていきたいと考えてございまして。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

神戸市交通局さん、お願いいたします。

○野々下委員（代理：小西）

神戸市交通局でございます。委員の野々下のほうが本日所用で欠席でございますので、代理で私のほうからご報告させていただきます。

資料5と6とあわせてごらんいただけますでしょうか。

まず、運行計画の変更でございます。これは市バスのほうでございます。お客様の需要に応じて、以下、路線新設・変更、増減便、始発時の変更等を29年度、30年度に行っております。30年度の運行計画につきましては交通局のホームページのほうで公開しております。

あと、交通環境の整備等ということで、西神・山手線のホームドアの設置ということで、三宮駅につきましては3月3日に供用開始でございます。30年度につきましては、実施しました実績をもとに精査した上で、将来に向けて3駅程度の実設計を行う予定でございます。

それから、西神・山手線の新造車両の建造と導入ということで、29年度は全28編成のうち1編成の建造を行いました。30年度につきましても1両建造を行い、合わせて2両の導入を行います。それにつきましては、34年度までで全車両の更新を行う予定でございます。

駅施設のユニバーサル対応の推進につきましては毎年度行っているところでございますけれども、30年度につきましては三宮駅西口のホーム～コンコース階のエレベーターの設置とか、湊川公園駅における神戸電鉄さんとの乗換経路についてのバリアフリー施設の概略設計を行うということでございます。

それから、バス停、バスターミナルについても利用者に配慮した整備を行うということでございます。

情報案内の充実等につきましては、これも29年、昨年3月から実施してございますけれども、バスロケーションシステム、パソコンとスマートフォンでバスの位置がわかるというような情報提供をしております。

料金体系等につきましては、昨年の7月から地下鉄海岸線の中学生以下無料化社会実

験を行っていますが、昨年度は7月から9カ月ということでしたので、本年度につきましても4月から来年3月まで通年、引き続き社会実験を行う予定でございます。あとは、29年につきましては、U-15定期発行ですとか、あるいは既にご紹介あったと思えますけれども、ICOCA定期券の発売開始等、IC化について推進をしております。

29年につきましては、8月1日で市営交通100周年を迎えましたので、記載のとおり
の記念イベントを実施いたしました。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

神戸新交通さん、よろしくお願ひいたします。

○長井委員

神戸新交通の長井でございます。

29年度の取り組みでございますけれども、まず交通環境の整備等の中では、ポートライナーの貿易センター駅、これが唯一、エレベーターの整備ができていなかった駅でございますけれども、コンコースからホームまでのエレベーターの整備ということで、今週の3月30日から供用開始する予定でございます。また、地上からコンコースにつきましては平成30年度に国土交通省様のほうで整備をしていただくという流れになってございます。

次に、六甲ライナーの新型車両への更新につきまして、こちら29年度からとなっておりますが、1編成目の供用開始が30年度以降に少しずれ込む形になってございまして、平成35年度までに全11編成を更新していくというものでございます。

情報案内につきましては、三宮駅にデジタルサイネージを設置してございまして、お客様への案内あるいは情報発信の強化に努めておるところでございます。

料金体系のところでございますけれども、昨年4月から通学定期運賃を2割値下げしてございます。特に子育て世帯への支援に資するという観点から実施したものでございます。また、ICにつきましては、昨年4月からICCOCAの発売を開始させていただいております。

イベントにつきましては、鉄道の日あるいはウォーキングイベントに取り組んでいるというところが29年度の取り組みでございます。

次に、資料6の30年度の方に移らせていただきまして、こちらのほうは運行計画の変

更のところは、先ほども資料3で触れていただきましたが、ポートライナーが特に朝、大変混雑してございますので、ポートライナーの車内改造を実施していくというものでございます。来月の4月20日ごろに改造車両の1編成目を供用開始いたしまして、来年5月にかけて全14編成を改造するというものでございます。

あとは、交通環境のところでございますけれども、真ん中の駅トイレのリニューアルですね。特に市民広場駅の駅トイレのリニューアルを計画してございまして、周辺にはコンベンション施設等がございますので、こちらをリニューアルし、一新していきたいと考えてございます。

情報案内につきましては、各社様でもよく取り組んでおられる多言語対応の案内機器の整備ということで、三宮と神戸空港にタブレットを導入し、訪日外国人の方への案内を強化しているというところでございます。

そして、料金体系のところも、先ほど資料3で触れていただきましたが、共通乗車証制度による混雑緩和、ポートライナーからバスへのシフトを図っていくという実験を30年度も継続して実施していくというものでございます。

イベントにつきましては、29年度と同様、また取り組みを強化していきたいと考えてございます。

以上です。

○小谷会長

ありがとうございました。

引き続きまして、神戸高速さん、お願いいたします。

○八島委員

神戸高速鉄道の八島でございます。いつもお世話になっております。

資料6でございます。

各社様からご紹介いただいておりますが、神戸高速線がこの4月7日に開業50周年を迎えるということでございまして、乗り入れ4電鉄様、神鉄様、山陽様、阪急様、阪神様にイベントを実施していただきまして盛り上げていただけるというような予定になってございます。

神戸高速からは以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

引き続きまして、バス、タクシーにつきましては、まずお手元の資料をもとに各協会さんからご紹介いただいた後、各事業者の皆様方のご意見をお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

まず、バス協会さん、よろしく願いいたします。

○中澤委員

兵庫県バス協会の中澤と申します。いつもお世話になっております。

当協会としましては、ここに記載していますようなことぐらいでございます。あと、各事業者さんのほうから各社で取り組んでおられる内容を説明していただけるかと思っております。

まず、当協会で行っておりますのは、9月20日がバスの日ということで、この日は決まっております。この日に県下の主要各駅でグッズ等を利用者や通行人の人にお配りして、バスに乗ってくださいねということをPRしているところでございます。

それと、例年9月中下旬にスルッとKANSAIバスまつりというのがございます。そこへ近畿バス団体協議会として参画しまして、来られた方に対してグッズ等を配布しまして、バスの利用促進に努めておるというところでございます。ちなみに、29年度はウイングスタジアムでやる予定でしたが、台風接近により中止になってしまいました。

それと、一昨年からバス旅ひょうごということで、お客さんが余り乗っていない通常の路線バス、空気だけ運ぶ状況ではもったいないということで、路線バスを利用して、なおかつコミュニティバスなんかともドッキングさせて、通常の生活路線バスによって県下を観光していただく。やはり県下どことも少子・高齢化ということで、なかなか利用旅客が伸びないというような状況から、少しでも乗ってもらおうと。もちろん企画乗車券ということで、大体2割から3割程度お安くして設定しております。それに乗っていただいて、兵庫五国の観光施設へ行っていただく。そこで見に行ったときに食事してもらおうことで、バス会社も儲かるし、地方にもお金が落ちていくということで、地域創生という観点から、一昨年から実施しております。

冒頭は期間がわずかの期間だったんですけれども、30年度につきましてはこの4月1日からやっていきます。地方の観光協会なんかともタイアップしまして、企画乗車券を持っていれば、その地域で食事する際に、提携している食堂やレストランでしたら何割引きかしてもらえという特典もつけての企画乗車券になっておりますので、また皆さん方もぜひご利用していただければと思います。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

それでは、タクシー協会さん、お願いします。

○奥委員

兵庫県タクシー協会の奥と申します。いつもお世話になっております。

それでは、当協会の取り組み状況につきましてご報告をいたします。

前年と、それから30年度と、似たり寄ったりの文言が並んでおります。若干違うところは、前年に記入漏れがありましたもので、まず資料6のほうを見ていただきまして、ご説明したいと思います。

交通環境の整備等、これも前年同様、地球温暖化対策ということで、UD車両、それからハイブリッド、ASV、電気自動車等の環境に優しい車の導入を促進するというところでございます。

情報案内の充実等につきましては、インターネットにおける情報の提供ということで、協会のホームページに運賃とか料金その他、各会社の基本的な情報、これらを掲載しまして、利用者にわかりやすいタクシーということで紹介しております。それから、全国タクシー連合会ホームページ、ここに「全国タクシーガイド」というのがございまして、タクシー会社の情報をこのタクシーガイドに搭載して利用者に見ていただくということで、兵庫県はこのガイドに100%搭載をしております、見やすいようになってございます。

料金関係ですけれども、一昨年からタクシー料金の見直しを検討しようということでやっております、タクシーの初乗りを短縮しまして、利用者の皆様にわかりやすいタクシーの体系に見直しをしていくということで現在検討をしております。

イベント等の関係でございますけれども、真ん中辺に出ておりますタクシーの日の取り組み、これは、前年に記入漏れがございまして、8月5日のタクシーの日には主要乗り場、三宮とか新神戸とか駅周辺でグッズ、ポケットティッシュとかタクシー利用券を配布しました。昨年度は300円券の利用券、その前の年は500円ということにしておりました。30年度はまだ幾らにするかということは決めておりませんが、それを検討し、配布していきます。

それから、ユニバーサルドライバーの養成です。現在UDタクシーということで、ト

ヨタのジャパンタクシーを中心に導入を推進しておりますけれども、それを運転するドライバーのコミュニケーション力をアップさせる。そうでなければ、障害者の方とかお年寄りの方とかに対応がなかなか難しいということで、ドライバーの研修を強めていくということにしております。

それから、その他のところを書いておりますタクシー事業の適正化・活性化です。現在、神戸市域交通圏については輸送力が過剰気味だということで、運輸局からの指摘も受けておまして、それに見合う削減計画を今推進しております。事業者計画の認可を運輸局さんにいただいて、順次、各社が減車をしていくということを進めております。

それから、下の地域住民の生活交通支援対策ですけれども、ここには書いておりませんが、現在、タクシーを活用した神戸市地域問題検討会、これを神戸市さんの協力のもとに進めておまして、神戸市域の交通空白地域とか、お年寄りとか地域住民の方がお買い物、それから病院等に行くのに足がないとか、そういう困っている両者のためにタクシーの活用をどのようにしたら一番いいのかといったところを神戸市さんとともに検討しております。

今後とも、やはりタクシーはドア・ツー・ドアということで一番便利な乗り物だと思っておりますので、安全・安心を第一主義としまして、迅速・快適、この方向でタクシーをどのように進めていったらいいのかということを検討してまいる所存でございます。

タクシーからは以上でございます。ありがとうございました。

○小谷会長

それでは、個人タクシー協会さん、お願いします。

○前野委員

兵庫県個人タクシー協会の前野です。

私ども、法人さんに協調していくことが基本でありますので、変わったことはしておりませんが、1つ、2つ、追加はあります。資料6のほうで説明をさせていただきます。

大体6項目に分けてあるんですが、前年度と一緒に、語学研修会をインバウンド対策の一環としてやっておりますが、初歩的な中国語、英語を学ぶ語学研修会を今年度もやる予定であります。

外国語電話通訳サポート「ビーボーン」の導入は、去年の9月頃から実際にはやっております、新しい組合員さんにも勧めているところであります。

バリアフリー研修会も、前年度は平成29年10月と30年3月に実施しました。今年度も

またやる予定でおります。これは公益財団法人大阪タクシーセンターより講師を招いて神戸で開催をしております。

そして、街頭指導のほうも随時やっております。多数は法人さんといろんな駅でやるのが中心ですが、個人タクシーだけでも、車体表示や車両内美化とか接客態度、お客様ご要望カードの全車搭載などについて、三宮周辺から地下鉄沿線でやっております。

個人タクシー新人研修会の開催は、年3回から4、5回、新しい個人タクシーさんが参加されるときに、免許をいただいたときにやっております。主に接客態度やサービスの提供、交通事故防止等について、時間にして2時間か3時間ほどの間でやっております。

事業者研修会は、300人から400人を集めまして、兵庫県個人タクシー事業者研修会としてやっております。また、その中で接客マナーコンテストや道路運送法など、スキルアップ、さらなる質の向上を図ることを目的としたことをやっております。今年度は平成30年9月ごろにやる予定でおります。

以上、個人タクシーからの報告です。

○小谷会長

ありがとうございました。

それでは、各事業者様からご発言いただきたいと思えます。

まず、山陽バスさん、いかがでしょう。

○横井委員（代理：西澤）

山陽バスの西澤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

委員の名前が「土田」になっているんですけども、土田は異動になっておりまして、今、横井という者が担当しております。横井も本日出席することができませんでして、私が代理で出席させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

当社の取り組みですね。まず、運行計画の変更に関しましては、当社、神戸の垂水区を中心に路線を運行しておりまして、地域に密着した路線ですとかダイヤの計画を行っております。今年4月1日から、地域からご要望のありました停留所1カ所新設するとともに、利便性の向上を考慮した新しい系統を1系統運行するような計画をしております。また、30年度に関しましても、引き続きこの方向性で、地域に密着した利便性の向上を図っていきたいと考えております。

次に、交通環境の整備等に関しまして、当社、28年度から、公共交通課さんの補助を

受けまして、各停留所にベンチの設置を進めております。29年度に関しましては10基設置いたしまして、30年度に関しましては大体10基程度計画をしております。こちらについても引き続きベンチの整備を進めていき、交通環境の整備・改善を行っていきたいと考えております。また、29年度はノンステップバス9両を導入いたしまして、こちらに関しても車両の更新にあわせて順次ノンステップバスを導入し、バリアフリーに配慮したバスの計画を立てていきたいと考えております。

次に、情報案内の充実等に関しまして、当社、28年3月からバスロケーションシステムを導入いたしまして、バスの位置情報ですとか、おくれ情報の提供を行っております。こちらに関して、27年度で導入は一旦完了しているんですが、何分こちら、情報案内のやり方、当社初めての取り組みでして、お客様から改善に関するご要望を多数いただいております。そちらに関して、30年度以降、順次改善を図って、より使いやすい案内システムを充実させていきたいと考えております。

次に、料金体系・企画乗車券等に関しまして、当社グループの山陽電車と連携した1 dayチケットを発売しております。垂水・舞子1 dayチケット、こちらは三宮ですとか大阪の梅田、難波から垂水のほうにお越しただいてバスに乗っていただくような1 dayチケットを発売しております。さらに、29年度から新たに垂水・明石、垂水・姫路1 dayチケットも発売しております。こちらは神戸のほうではないんですが、垂水区内から明石なり姫路のほうにお出かけいただくような乗車券というのも発売をしております。また、バス単独の取り組みといたしまして、バスの往復乗車券とマリンピア神戸さんの買い物券をセットにしたような企画乗車券も、去年の夏、発売をしております。バスに乗ってお買い物していただけるような企画乗車券も行っております。こういった他の交通事業者ですとか、あとは商業施設とかとコラボしたような企画乗車券を今後も発売して、より公共交通をご利用いただけるような企画を考えていきたいと思っております。

また、イベント等の計画につきまして、この土日もなんですが、当社、神姫バスさんがイオンモールで開催されているイベントのほうにもちよっと参加をさせていただいたんですけども、今後もスルッとKANSAIバスまつりですとか、あとは山陽電車の鉄道フェスティバルとか、ほかの事業者ですとか、あとは地域と連携したようなイベントに参加させていただいて、バスの利用促進ですとかPRですとかを図っていきたいと考えております。

当社、山陽バスの取り組みについては以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

それでは、神姫バスさん、お願いします。

○前田委員

神姫バスでございます。

29年度の取り組みにつきまして、運行計画のところですが、4月に神戸市内定期観光バスを天井のないオープントップバスのほうにリニューアルして運行しております。それから、先ほど事務局のほうからもご紹介いただきました7月に5日間の連節バス社会実験運行、それから10月におきましては西神中央駅から神戸複合産業団地、それから木津駅を結ぶバス路線も開設しております。それから、八多町の社会実験バスについても本格運行ということで、毎日運行のほうに至っております。

30年度につきましては、こちらでもご紹介いただきましたように、4月1日から新神戸・三宮・神戸空港の路線を朝夕9便運行で予定しております。それから、昼間の時間帯につきましては、観光需要等もにらみまして、神戸駅からハーバーランド等を通りまして神戸空港に行く路線、こちらでも1日9便を予定しております。ポートライナーの混雑緩和とあわせてご利用いただければと考えております。

ウォーターフロントエリアにつきましては、今後も再開発の需要が見込まれることもあわせまして、今回の第3突堤の北側、ポートオアシスの付近ですね、バス停の新設を予定しております。こちらでも4月1日の供用開始予定でございます。

北神地区の再編実施計画につきましては、弊社の路線を中心に今議論のほうを進めておりますので、引き続き神戸市さんと一緒に検討のほうを進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

阪急バスさん、お願いいたします。

○野澤委員

阪急バスの野澤でございます。よろしくをお願いいたします。

当社は、神戸市内は非常に路線が少ないところなんです、事業全般的なお話として

3点ほど、情報案内の充実が中心になりますが、先ほど山陽バスさんのお話もありましたバスロケーションシステムを弊社は一昨年から3カ年にわたって導入してまいりましたが、本年度、最終年度といたしまして大阪エリア、約450両の車両でございますが、バスロケーションシステムを全車装着いたしまして、京都、兵庫、大阪、3エリアで全てバス位置情報をご案内できるバスロケーションシステムが本日より開始いたします。

2点目といたしまして、有馬案内所のリニューアル工事でございます。こちらのほうですが、建てまして随分年数がたっておりまして、近年、インバウンドのお客様のご利用が非常に増えてございますので、主に美装化とインバウンドのお客様への対応を実施いたしております。多言語対応した時刻表、デジタルサイネージを活用した時刻表案内、また発射案内システム、デジタル音声システムで多言語の対応、自動券売機に多言語対応したものを導入いたしております。

3点目といたしましては、有馬を結ぶ新路線といたしまして、2月25日から有馬京都線を運行開始いたしております。8往復の運行で、京阪バス様と共同運行を実施しております。今後、インバウンドのお客様を中心として利用が伸びてまいればと期待しているところでございます。

簡単ですが、以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

それでは、扇タクシーさん、お願いいたします。

○成川委員

扇タクシーの成川でございます。よろしくお願いいたします。

先ほどタクシー協会のほうから報告をさせていただいておりますので、補足というような形ですが、地域住民の生活交通支援対策で、神戸市さんのほうと検討会を立ち上げて実施をしておりますけれども、その中で、須磨の潮見地区での乗り合いの検討をしております。それから、昨年、実際に実証実験をやりまして、渦森地区、それから一部、鴨子ヶ原が入るんですが、そこのバスをおりてからのラストワンマイルでの実証実験、これに私どもの会社も参画させていただきました。数日間だったんですけれども、ほとんど利用が見込めなかったということで、実験自身は余り成果がないというような形なんですけれども、これはまた、2年後ですか、渦森会館の完成にあわせて、また乗り合いをしたいということで、みなと総局さんが主導で考えておられますので、まだまだ検

討させていただくことになると思います。

それから、阪神支部のほうでユニバーサルドライバーの研修なんですけれども、今年に関しては年8回ぐらいを予算化して検討をしております。これによってUDドライバーをどんどん育てていこうということで検討しております。これはもちろんサービスの向上にもつながるといことですね。神戸地区でのタクシー、特に新神戸、三宮駅での乗務員の質が非常に悪いというお叱りをいただいております、こういう研修をすることによって少しでもよくなるようにと。それからまた、新神戸駅を中心に、今年の4月、5月から、ちょっと長期的になるんですが、協会の各社の管理職、また代表者が出向きまして、実際にモニターになって乗車をして、悪い乗務員が居れば、その乗務員に関しては、もちろん指導しますが、なかなか直らないような状態になったときには、新神戸駅、それから三宮駅、こういったところでのタクシー乗り場への入構を禁止しようというような計画を現在しております。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

神戸タクシーさん、お願いいたします。

○松本（恒）委員

神戸タクシーの松本と申します。

今回、代表者変更ありまして、今回また私が参加させてもらっています。

タクシー協会としては、先ほど奥専務から報告があったとおりです。

一タクシー会社として、供給力、輸送力の削減を求められている中で、時間帯、その変更によってお客様からタクシーがないという苦情も入ってきているのが現状ですので、そういったことも踏まえて、乗務員の出勤する時間をずらしたり、新たな無線機を導入したりして、私ども東灘、灘区を中心にやっているんですが、地域のお客様のニーズに応えられるようにサービスの向上を目指していきたいと考えております。

私のほうから以上です。

○小谷会長

ありがとうございます。

神戸相互タクシーさん、お願いいたします。

○平尾委員（代理：大谷）

神戸相互タクシーの大谷と申します。本日、委員の平尾の代理で出席させていただいております。

交通環境の整備等についてですけれども、先ほどから協会からお話がありましたとおり、UD車両、ハイブリッド等の車両の導入を進めております。UD車両につきましては、ジャパントクシーですね。取り急ぎ、この春に1台、導入を行っております。また、昨年よりハイブリッド車両につきましても順次導入を行っております。環境、温暖化の対策にも努めております。

料金体系・企画乗車券等につきましてはですが、タクシーのご利用のお客様、やはり高齢者の方が非常に多くお乗りいただいております。当社としましては、高齢者、70歳以上のお客様の運賃助成ということで、あとは若者世代にもタクシーをご利用いただけるように、若者世代の応援ということで助成を当社独自でも行っております。会員さんとして年々利用のほうも増加しておりますので、引き続き行っていきたいと思っております。

イベント・その他公共交通の利用推進についてですけれども、ユニバーサルドライバーの養成ということで、研修に管理職を含め乗務員のほうも今後行っていきたいと思っております。

サービスの向上としましては、マナー講師を派遣していただきまして、社内での講習を全乗務員に取り組みをさせております。

事故防止についてですけれども、警察のほうと連携しまして、講師を派遣していただきまして、こちらも全乗務員について講習を毎年行っております。

当社からは以上になります。ありがとうございます。

○小谷会長

ありがとうございました。

最後になりましたが、団体としてご出席していただいております神戸観光局さん、何かございますか。

○市邊委員（代理：安田）

神戸観光局です。いつもお世話になってます。

特段、この場で具体的な説明はないんですが、昨年12月末に神戸観光局という形で組織を改組しております。また、民間の皆さんとの取り組み等もこれから増やしていくということで、これからですけれども、ちょっと取り組みを強化していきたいと考えてお

りますので、また同じように皆さんと活性化していけたらなと思っていますので、よろしく願いいたします。

○小谷会長

どうもありがとうございます。

委員の皆様方には、短時間でございましたが、丁寧にご説明をいただきまして、ありがとうございます。

こうした取り組みをいろいろやっただけでございまして、神戸市全体として、これらの取り組みが計画の中で数値目標に対してどの程度達成されているか、なかなかすぐには結果が出るものではないかもしれませんが、現状を事務局よりご説明いただきたいと思います。

○竹本公共交通課長

それでは、資料7でございます。

数値目標の状況についてということで、最初に説明をさせていただいたように、公共交通網形成計画の中で4つの目標を立てておりますが、それらについて代表的な指標ということで、表のような数値目標を設定しております。それぞれの指標について数値のほうをできる範囲で検証させていただいております。

1 ページ目の上の段に一覧表があるんですけども、その後ろに指標ごとの進捗みたいなものを、グラフの形になっておりますが、示しておりますので、あわせてごらんいただければと思います。

まず、1つ目の目標1の指標としまして、公共交通の分担率につきましては平成22年度の31%を平成37年度に35%まで高めるという目標でございます。平成22年度の値につきましては10年に一度の近畿圏パーソントリップ調査の結果によるものということで、平成29年度につきましては別途、ウェブのほうで調査を実施しまして、年齢とか性別とか移動目的等々、そういった区分ごとに分担率を把握しまして、補正をしているという状況で29年度の分担率を算出しております。その結果、公共交通の分担率につきましては32.7%ということで、ちょっと上がっているという状況となっております。

それと、目標2の指標でございます。都心・観光地での交通手段の利用割合ということで、公共交通と徒歩・自転車の利用割合の合計になります。平成27年度の68%を平成37年度に75%まで高めるという目標としております。指標としましては、市のほうが実施しております観光動向調査といったものの値としてございまして、この調査の調査方法

としましては、神戸市の各観光地とか観光施設でヒアリングによって、どんな交通手段で来ましたかということ把握していくといったものの集計となっております。これに基づきまして平成28年度の値を出しますと、69.4%ということになっております。

それから、目標3です。地域コミュニティ交通導入の支援地区数ということですが、目標値につきましては平成28年から37年度の間で新たに30地区という目標を掲げております。指標値につきましては、28、29年度の合計ということになりますが、8地区となっております。内訳としましては、28年度に5地区、29年度は3地区に新たに支援を行っております。今後、こういった地域での検討の進捗というものが期待されるところでございます。

それと、目標4でございます。

ユニバーサルデザインの推進ということで、先ほどありましたけれども、鉄道の車内外の案内表示の多言語化についてでございます。こちらにつきましては、目標値のほうは平成37年度に70編成ということで、市内で完結する鉄道路線全てを多言語化することを目標にしております。29年度は、北神急行のほうで2編成が新たに更新されましたので、37編成というふうになっております。それと、資料のほうで、グラフの上に「75編成」と書いてありますが、これは「70編成」のミスプリということでございます。すみません。修正をお願いいたします。

それから、目標4でもう一つの指標ですが、バス停留所のベンチの新設です。目標値は平成28年から37年で500基というふうにしてしております。29年度につきましては、市バスが27カ所、民間バス会社が16カ所ということで、合計43のバス停が新たにベンチを設置されておまして、28、29年度の累計としましては61基ということになっております。

以上、数値目標の進捗についての説明を終わらせていただきます。

○小谷会長

ありがとうございました。

余り残された時間はございませんが、ただいまの数値目標の進捗、それから先ほどまでの各交通事業者、各種団体様からのご紹介も含めまして、何かご質問、ご意見、ご感想がございましたら、どなたからでも結構ですから、いかがでしょうか。特にございませんでしょうか。

もしよろしければ、国のほうの機関の行政の委員の方で何かご感想等ございませんか。

○安江委員（代理：野村）

お世話になっております。近畿運輸局、本日は安江が欠席しております、代理で野村がお話しさせていただきます。

まず、北神地域ということでバスの路線再編ということで計画を立てておられまして、第4回検討部会までには地元説明会をしていただいて、ご意見を求めるということで聞いておりますけれども、やはりまず行政、事業者、地元住民の方、それぞれの意見をすり合わせていただくのが大事なところだと思います。効率化が図れていない、地元の方の意見がきっちり取り入れられていないという事例も少なからずあります。公共交通の利用率がさらに低下したような地区も見られるところもありますので、いかに地元の方のご意見を聞くかが大事になります。地元説明会で意見を吸い上げていただいて、いかに効率化が図れるのか、プラスそこで利便性が低下してしまうという場合、かなり問題がありますので、いかに利用が上がるか、利便性の向上を図っていただくかというところがポイントというところになりますので、交通網の見直しだけではなくて、利便性の向上をいかに図っていただくかというところも力を入れて事業の推進をしていただければなと思っておるところでございます。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

何か事務局のほうからございますか、コメント。

○久保交通支援担当課長

ご意見いただきまして、ありがとうございます。

まず、効率化に関しましては、ここ1年のICデータに基づきまして需要の多い少ないというのを客観的に分析して、少ないところの効率化を進めていくようなことも行っております。

また、地元の意見をこれから聞きますが、利便性を向上させる施策といたしましては、例えば一つのアイディアとしてパーク&バスライドというような施策を検討してみたり、先ほど申しましたけれども、コミュニティバスから路線バスに乗り継ぎをするときの運賃の割引施策なども考えていきたいと思っております。バスライドと言いましたけれども、サイクルライドといった利用を底上げするような施策も考えてまいりたいと思っております。

○小谷会長

ありがとうございます。

いかがでしょう。県からご出席の行政の皆様方で何かご発言ございますか。

お願いします。

○登日委員（代理：正垣）

お世話になっております。兵庫県の交通政策課の正垣と申します。

先ほど伺いして、各事業者の皆さん、いろいろ取り組んでおられるんだなということに改めて認識した。先ほどバス協会のほうからバス旅ひょうごの取り組みのご報告がありましたけれども、このバス旅ひょうごはバス事業者さんが協力されているだけではなくて、今年度は山陽電鉄さんも参画されてということで実施されています。せっかくこういう活性化協議会という場で業種の違う方々が皆さん集まってやっておられるので、特にイベント等、それから情報提供というところで、グループ会社であるとか同じ事業者間というところを超えた取り組みをぜひ今後期待したいと思っています。

というのも、三宮のまちづくりが今後変わっていく中で、やはりハードだけでは対応できないところは、情報提供やソフトの対策が不可欠になってくると思いますので、そういうときには関係する事業者の皆さん、県・市ともに一緒の視点で考えていくことがやはり必要になってくるんだらうと感じますので、その前に、いろんな形で協力していけたらと考えていますので、ぜひよろしくをお願いします。

○小谷会長

どうもありがとうございます。

市の内部の他部局で何か補足等ございますか。よろしいですか。

ほかに何か、委員の皆様方で。協議の場ですので、きょうの情報を持って帰っていただきまして、相互に、また共同の取り組み等ございましたら、ぜひともよろしくお願ひしたいと思っています。

○成川委員

ちょっとよろしいですか。

○小谷会長

はい、どうぞ。

○成川委員

大分前に申し上げたんですけれども、三宮のクロススクエアの問題です。今、市のほうで検討されていると思うんですが、図なんかで拝見しますと、タクシー乗り場という

のが四隅のほうに追いやられていると言ったらおかしいかもしれないんですけども、ちょっと駅から離れたところにタクシー乗り場が配置されるような感じに見受けられたんですけども、前に申しあげましたように、タクシーに乗られるお客さんの中には電車をおりられて本当に歩くのに歩行困難な方であるとか車椅子の方であるとか、いろんな方がおられるんですね。そういった方を中心というか、専属の乗り場でも結構なんですけれども、一番近いところにそういう乗り場を設けていただいて、先ほども申しあげましたけれども、ユニバーサルデザイン研修ということで、そういうドライバーを今養成していっていますので、例えば、そういう資格を持った人間しか入れないようなタクシー乗り場でも結構ですから、そういうのを一度ご検討いただけないかなと思います。

○小谷会長

いかがでしょう。

では、担当部局の方、お願いします。

○若林委員

都心三宮再整備課の若林でございます。

平素はいろいろご協力いただきまして、ありがとうございます。

非常に大事な視点だと思っております。ただ、三宮クロススクエアについては少し勘違いというか、私どもの情報提供不足のところがございます。通過交通については排除していこうということであって、人・公共交通優先の空間にしていこうということで考えてございます。そういった中で、一定やはり駅前広場とか、その寄りつきについては、十分お示しはできていないところがございますが、交通弱者の皆様の利便性を損なうような方向にはしていきたくないので、今言われた視点につきましては十分検討していきたいと思っております。

あと、先ほど少し駅前タクシーの乗り場が外に追いやられているというような表現ございましたけれども、私どもは、6つの駅をあたかも1つのようにしていくという形の中で、利用する駅のすぐ近くに、次の交通の結節点となるような新たな駅前広場を含めまして検討していくことで、逆に利用者の皆様には一番近いところですぐに次の結節機能を持っていくという形にしていきたいと考えてございます。ただ、今ある駅前広場というのは、特にJRさんの中央口を中心に南側、北側というような形でございますが、それをもう少し、将来的には数をふやしていく方向で考えているという意味で言えば、利便性が逆に高まるのではないかと思います。それぞれの駅から近いところにそういっ

た結節点を設けていきたい、そのように考えております。

先ほどの視点、ユニバーサルデザイン、非常に大事な視点でございます。今、えき～まち空間の基本計画もまさしくそういったところを取り入れた形で考えていこうとしてございますので、今おっしゃられた点は今後もまたご協議させていただきながら、具体の整備計画のところでは反映させていただきたいと、そのように考えてございます。

以上です。

○小谷会長

よろしゅうございますか。

何かほかにご意見ございますでしょうか。

はい、お願いします。

○辰馬委員

北神急行でございます。

この交通網形成計画につきましては昨年策定されまして、再編実施計画とか具体的な動きになっているということですか、事業者間の連携ということで兵庫県様からありました。それがこれからどんどん進んでいくのかとは思いますが、1点、これは計画の策定時点もあったと思うんですけども、大きな要素としてまちづくりとの連携があったと思います。

そういう意味では、先般、神戸市様では、2月の都計審でもありましたように、神戸市都市空間向上計画ですか、そういったものを作っていくという動きもございますので、交通だけではなくて、やっぱり利用者、まちづくりとセットになって、我々交通が生きてくると思います。ぜひともそういったところとの連携ということで、これからということになると思いますけれども、そういった点につきましてもこの会議でも連動が図られるように議論が進んでいくようになれば良いと思いますので、意見として申し上げさせていただきます。

○小谷会長

ありがとうございます。

特に事務局からコメントございますか。

○丸岡委員

都市計画課長の丸岡と申します。

今おっしゃられたように、神戸市のほうでも、残念ながら、人口減少局面に入りました。

て、今現在、約154万人の人口なんですけれども、国のほうの研究機関によりますと、2060年には110万人まで減少するのではないかというふうに推計されていまして、今から44万人、約28%の人口減少という、かなりインパクトの大きなことになろうかと言われていています。我々、当然、人口減少を甘んじて受けよう、甘受しようとは考えていませんで、できるだけ人口減少のスピードあるいは幅、そういったものを縮める努力は当然していくつもりです。ただ一方で、そういうリスクがあるということは言われていますので、それを見据えた計画というのも今から立てていく必要があるということで、国のほうで言うと、立地適正化計画という言い方をしていますが、神戸市のほうでは都市空間向上計画という名前で、このたび基本的な考え方の案を公表させていただいたところ
です。

その考え方というのは、今のままですと、人口が減少していったって、低密度な市街化が広がってしまう。低密度なままだと、民間サービスあるいは公共交通のほうもやはり撤退を余儀なくされる。そういったことが現にスーパーなんかでは発生していますし、そういった状況にならないように、メリハリをつけていく。まちをある程度コンパクトにしていく。メリハリをつけていったって、民間サービスなりを維持していく必要があるのではないかと思います。コンパクトにしていくということは、一方で、拠点になるような駅を中心とした場所にいかにアクセスをよくしていくのか、維持をしていくのかという観点が必要になりますので、コンパクトだけじゃなくて、ネットワーク、そういった観点が非常に大事になってくるかなと思っています。

そういう意味で、おっしゃるように、まちづくりと交通というのは切っても切り離せない関係にあると思いますので、我々も今、都市空間向上計画については3月22日に第1回目の有識者会議を開催させていただいたばかりですが、その中で交通についても非常に大事な施策だと思いますので、どうあるべきか、まちづくりと公共交通とセットで考えていきたいと思っています。

○小谷会長

ありがとうございます。

もう時間がほとんど残されておられません。その他の報告事項に移る前に、今までの議論をお聞きになりまして、水野先生のほうから何かコメント、もし何かあれば、よろしくをお願いします。

○水野委員

失礼いたします。

ちょっと感想めいたことになりましたが、2点ほどお話しさせていただきたいと思いません。

今回の活性化協議会は、網形成計画ができて1年たつての現状確認や情報共有、神戸市の公共交通の維持・充実に向けて関係者との協議の場ということで開催されているわけですが、この協議会の役割としては、こういった形で網形成計画に基づいて毎年しっかりと進捗をこの場で確認していくというような役割があるんだろうというふうに思っています。ただ、そういったことで行きますと、今回、事業者、行政、神戸市のほうから多岐にわたる事業の報告があったわけですが、それを市民のほうにもしっかりと伝えていってほしいと思います。例えば、今回、事業者様の今年度、そして来年度に向けた取り組みがあったかと思うんですけれども、それぞれの事業者さんの企業努力によってPR、広報されていらっしゃると思いますが、行政は行政でしっかりと事業者さんと手をつないで、神戸市の公共交通網はこういうことになっているのだという全貌をしっかりと市民にご報告、知らせていっていただきたいというのが1つございます。

もう一つは、今回、進んでいるかということで行くと、これだけ進んだということが報告されるわけですが、一方で、ちょっと言葉はぴったりじゃないかもしれませんが、成功体験がこの場で共有されるわけですが、それだけではなく、今回もいろいろな実証実験をされているというようなお話があったわけですが、その中で見えてきた課題であったり、達成に至らなかったけれども、こういった難しいハードルがあるんだ、先ほど扇タクシーさんのほうからお話があったと思うんですけれども、この場でなくても、そういう検証結果みたいなものをしっかりと積み上げていく、まとめていくというようなことが、今後、長期間にわたってこの計画を進めていく上で非常に大切になるのではないかと思います。

先ほど、まちづくりと連携というお話がありましたけれども、例えば地域コミュニティ交通という話で行きますと、どのように地元と進めていったのか、どこがうまく行って、どこがうまくいかなかったか、難しかったところはどこなのか、この場は非常に大きな場ですので、時間の制約などもあって、この場でということは難しいかもしれませんが、しっかりと積み上げて行って、次につなげていただけたらなというふうに思っております。

以上でございます。

○小谷会長

ありがとうございます。

では、正司先生、お願いいたします。

○正司委員

先ほど、まちづくりとの連携の話を、個々の事業の進捗を確認する中、これはこのまま進めていくと、計画5年、10年の目標年が常に進んで積み上がっていくなと思うんですけども、その先というか、10年後、20年後の神戸市の人々の移動パターンがこんなにすばらしくなるよといった議論もあわせてやりたいなと思います。だから、基本方針そのものの議論をやる必要があるのかなと考えています。

それから個々の事業の進捗の管理に時間をとられ過ぎると、まるで公共交通課の仕事の点検だけやっている形になるので、神戸市として何をやるか、神戸市は各テーマについて関連ある事業者さんと協力して何をしようとしているのかという議論、さらに市民の方々と何をするかという議論もあわせてできればいいのかなと思いました。

以上です。

○小谷会長

ありがとうございました。先生方から大変貴重なコメントをいただきました。

進捗状況をグラフにあらわしていただいているのですが、まさしく現状と目標値をつないだ段階ですので、この線上にこれからどう乗せていくのか、ぜひとも皆様方の協力をいただきたいと思います。一方で、水野先生からもご指摘ありましたように、市域全体としてのパフォーマンスと同時に、貴重ないろいろな取り組みをやっておられますので、個々の取り組みによるパフォーマンスについても、うまくいかなかったものも含めて、きめ細かく評価をしていく必要があるなど、お話をお伺いして私も思いました。

また、ともすれば毎年毎年の取り組みに目を奪われがちですが、正司先生がおっしゃいました、これから10年先、10年もたつと一層少子・高齢化が進みますし、それこそ何十年も先になりますと、また違う世界もあります。最近、自動車も進歩が目覚ましく、自動化、電動化、共有化が進んでおり、自動車が社会に与えるインパクトも非常に異なってくるので、そういった将来を見据えた議論も改めて考えていく必要があるなというのを改めて認識いたしました。

引き続きまして、地域の住民の方々、それから事業者、各種団体の皆様方、行政の皆

さん方が連携をして、この交通網形成計画をより実りあるものにする努力を続けていた
だきたいと思います。

(2) その他報告事項

○小谷会長

時間が少しオーバーしてしまいましたが、最後にその他報告ということで、事務局か
らお願いをいたします。

○竹本公共交通課長

すみません。ありがとうございます。

資料のほうで、資料8と資料9というのがちょっと残っておりまして、そちらの説明
を簡単にさせていただきたいと思います。

この協議会ですけれども、平成28年度から2年間という期間を定めまして開催してき
たんですけれども、来年度以降も網形成計画の進捗管理、それから先ほどご指摘ありま
した基本方針の確認とか検討、今後の検討といったことも引き続き行う必要があると思
っておりますので、来年度以降の要綱という形で、同様のものがございますが、また引
き続きやっていきたいということで、資料8をつけさせていただいております。

あわせまして、資料9のほうは部会として設置しております北神再編の検討部会の要
綱でございます。引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

○小谷会長

ありがとうございました。

皆様方には長時間にわたりまして大変熱心にご議論いただきまして、ありがとうござ
います。

本日予定しておりました議事は全て終わりましたので、事務局に進行をお返しいたし
ます。どうもありがとうございました。

3. 閉会

○竹本公共交通課長

小谷先生、どうもありがとうございました。

それから、委員の皆様におきましては、長時間にわたってご議論いただきまして、本当にありがとうございました。

また、次回協議会につきましては、来年度末にこういった同様のチェックみたいなことを行っていただくということと、間で必要が生じた場合、招集をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に交通政策部長の鈴木より一言ご挨拶させていただきます。

○鈴木交通政策部長

大変長時間にわたりまして、さまざまなご意見を賜りまして、ありがとうございました。

この協議会なんですけれども、当初は、形成計画を策定するというので、いろいろ議論を重ねてきたわけなんですけど、この計画をいかに実現に結びつけていくか。特にこの協議会は、鉄道、それからバス、タクシーの多岐にわたる交通事業者が一堂に会する会議ということでございますので、先ほど先生方からいろいろご指摘いただきました、また委員の方々からもご指摘いただきました、特に我々としては鉄道、バス、タクシーのモードを超えた連携というものをいかに実現していくか。

例えば、今日お話がありましたけれども、ポートライナーの混雑対策の問題で、ポートライナーの定期券をお持ちのお客様は社会実験バスの空き席も乗れますよ、こういったモードを超えた取り組み、それから神姫バスさんからもありましたけれども、空港向けの大きな荷物を持ったお客さんはダイレクトにバスに乗っていただくじゃないか、こういう取り組みなんかもこの協議会ならではの取り組みなんではないかなと思っています。こういった例に限らず、各事業者間の連携、相乗効果というものを、この協議会をプラットフォームにして、どんどん展開していくということができれば、一番意義があるんじゃないかなと思っています。

まだまだ課題が山積でございますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

○竹本公共交通課長

ありがとうございました。

それでは、これで協議会のほうを終わりにさせていただきたいと思っております。長時間どうもありがとうございました。